自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社　旬彩亭
（ユニット名）	グループホーム　旬彩
所在地 （県・市町村名）	静岡県磐田市
記入者名 （管理者）	鈴木　典子
記入日	平成　20　年　4　月　17　日

セリオコーポレーション有限会社　アスク事業部

静岡県　グループホーム旬彩

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の尊厳を守りつつ、地域との交流を深めながら居心地のいい環境を提供する」ことを理念としている。小規模多機能型居宅介護の利用者とともに楽しく過ごすよう支援している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念、方針に関して管理者の介護に対する精神は、職員もこれをよく理解し、日常の業務を遂行してくれている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、地域の行事、総会などに積極的に参加している。又「旬彩たより」を毎月発行し地域の方にお渡しし、塔ホームの理念を理解していただくよう努力している。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	マンションの1階部分がホームであるため、上階の住民をはじめ、訪問される方々にも気軽に声を掛けたり、立ちよって頂いている。また、毎日の散歩では近所の方々と会話をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会合、老人会（月1度の手まり会等）、地域のイベント（納涼祭、防火訓練等）などに参加させていただいている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々「介護教室」「認知症ケアの仕方」などを開講している。 また、認知症の方々をサポートする「キャラバンメイト」として「認知症介護教室」の講師をし、この活動を通して市町村の連携を図っている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はなるべく職員1人1人が記入していただくよう、管理者より指示しているため内容的には理解している。 外部評価は数年来行っていることもあり、その結果をいつも全員に伝え改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、自治会役員、市の職員、入居者、ご家族、職員を含め12～13人で行っており、活発な意見が出ている。 今困っている状況をグループホームより発言すればその専門的な立場の方（民生委員、市の職員）が助言したり調査してくれ助かっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会の会合、老人会等に入居者と共に参加させていただき、日常のサービス向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の社会福祉協議会への会合に参加し、地域権利擁護事業について学んでいる。また、成年後見制度については、入居者の中に申請したものがおり、裁判所の職員の訪問、病院での認知能力の判断のための受診に立ち会っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待は勿論、言葉による虐待、無視、不平等差別など、日常的に走りやすいため注意している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には充分な話し合いをし、納得行くまでご説明している。　解約に関しては今までご家族側からの要望が全部なのでしこりが残らないよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に見えたときは、意見など言いやすいような雰囲気と充分時間をとって話し合っている。　また、その意見、要望は職員に話し（引継ぎ、全体会、カンファレンス等）日常のサービス向上に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「旬彩たより」に行事の内容、日々の暮らしぶり、運営推進会議の報告、職員の異動について報告している。「健康チェック表」では毎日の健康管理（バイタルチェック、排泄、入浴、食事摂取量、薬の服用）などを報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声をかけ、ご家族が率直な意見、不満、苦情などを言いやすい雰囲気作りを心掛けている。指導のあった件については職員と話し合い改善するように努力している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社としての方針、変更点などの運営に関しては、全体会のミーティングに発表し皆の意見を聞いている。 また、個人的に疑問点、意見があれば聞き、内容によっては運営者に相談している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の体調の変化時等、職員に連絡し応援、時間延長を依頼し勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職する場合はいきなり入居者には告げず（お別れの挨拶等）時間と機会をみて話すようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業（市、社会保険協議会、グループホーム協会等）の研修、講演会にはできる限り参加するよう働きかけている。また、研修の内容については、全体のミーティングのとき発表してもらい、1人のものとしないようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会には必ず参加し、他のホームとの相互の交流を深めている。 市内の管理者同士の連絡をもち、情報交換、意見などを聞き運営に反映している。「薬の勉強会」は他のグループホームと合流して行った。他のホームの行事にも参加させていただいた。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	何でも言える雰囲気と時間を設けている。年2回ほど、懇親会を当社運営のホテルで行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常の勤務状況等を密に連絡しあい、お互いが向上するよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者と向かい合って納得の行くまで話し合いを行っている。　納得されない場合はご家族に連絡し、緒言を頂き再度話し合いをもっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族には、気軽に話していただけるような雰囲気作りをまずおこない、話を聞く耳をもって接している。立場により内容も変わってくるので、1人だけではなくほかの人には聞くように努力している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談、直接見学に見えられたとき等、まず、今何に困っているのかよく聞く。それに応じて他のサービス、他に施設などに紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族の方と相談の上で自宅で使用していた家具調度品を使用していただいている。特に帰宅願望の強い入居者に対しては、それまで生活していた習慣などを重要視して安心していただいている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現実問題、人生の先輩として常に教えられることも多く、それぞれ尊敬できる特技、長所を持っている。教えていただいたり、学んだことに関しては感謝の気持ちを素直に表している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に1度のお便りの中に入居者の近況をお知らせしたり、入居者の行動障害について記入したりしている。その件につき、ご家族より手紙、電話などあり、問題解決に向って話し合ったり、相談にのったりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に見えられたとき、困ったことだけを伝えるのではなく、ご本人がいいことをやってくれ、職員が助かったこと等報告している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚が面会に見えられたり、電話があったときは職員から一言近況をお知らせしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の中でお互いに助け合ったり、声を掛け合ったりしている姿が日常的に見られる。（食事に行くときの声かけ、車椅子を押してくれる、食器拭き等）		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	「何かあったらいつでもご相談ください」、「お近くまで来たら是非お立ち寄りください」のような声かけをしている。また、年賀状の交換をしている。長期の入院をされている方には、定期的に見舞いに行き声を掛けている。また、洗濯物を持ち帰り洗濯をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅で過ごしていた習慣、本人の想いを大切にしている。例えば、入浴を寝る前にしたいとの希望があればそのようにしている。また、もう少し寝ていたいという方には休んでいただいている。体調不良を訴える方には、本人の希望通り自室でお食事を摂ってもらっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活してこられた生活暦をご家族よりお聞きして、なるべく近い状態でのサービスを提供するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各個室にてプライバシーは確保されており、談話室、事務所は出入り自由で好みの場所にいられるよう誘導している。通路にはソファー・ベンチを設置し入居者同士がくつろげるようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の日常の様子、本人、ご家族の意見等を聞きとり、実践するよう努力している。毎日の申し送り、全体のミーティングには職員の意見、情報交換をおこないつつ、介護計画を検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認知症の方は日々変化があり、体調が急に悪化する方もいるため、日常生活をよく観察し早目の対応、連絡を密にとっている。必要に応じ介護計画を見直している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日報、夜勤日報、業務日誌にて客観的な出来事、主観的な考察を交えて記録しており、職員は誰でも目を通すことが出来るようにしている。また、引継ぎ時にはその日のリーダーがその場に居ない職員に伝言、記入している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設自体がマンション形式のため、部屋も広くご家族も入居者と共に宿泊されることもある。また、台所を各部屋に設置してあるため、ご家族、親戚、友人等が見えられたときは、好みの食事を作って召し上がることも出来る。（日常はブレーカーで止めてある）上階の高齢者、独居世帯へは配色のサービスを行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1度地域の老人会（手まり会）に参加させていただいており、地域の方々と接する機会を設けている。また、民生委員の方も運営推進会議に毎回出席していただいており、時々施設にも立ち寄ってくれ、てまり会でも顔を合わせている。中学生のボランティア、行事のイベント参加でボランティアの方々が協力し支援してくれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネージャーの方から見学の要望があり、対象者のご家族を連れて見えられる。また、入居希望があっても満室のときは他のサービスを薦めたり他のグループホームに連絡して空き具合を聞いたりして支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	小規模多機能型居宅介護開始に伴い、地域包括支援センターと連絡を密にし、ご紹介の利用者相談される利用者もいる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と連絡を密にして適切な医療サービスが受けれるようにしている。異常、緊急時には協力医院の医師が往診にすぐ来てくれる。また、院長の携帯電話番号も教えてくれ、休日も対応できる状況になっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院のほか、精神科、脳神経外科、総合病院を主治医として設定している入居者もいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤ではあるが看護師が2名職員として勤務している。日常の入居者の健康チェック、受診の付き添い、急変した時は夜でも休日でも出勤して体調を診てくれる。電話でも相談、助言もしてくれる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	基本的には担当医師、ご家族の判断に任せているが、当方としてはいつ戻られてもいいように準備しその旨をお伝えしている。　見舞いには時間が許す限り職員が出かけ励ましの言葉をかけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に同意書を交わし、もしものときの対応について話し合っている。また、かかりつけ医にも入居者の体調の変化について密に連絡し、協力していただいている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアについて勉強会、研修に参加し、よりよい支援が出来るように取り組んでいる。看護師2人と職員と常に入居者の体調変化に注意し急変に備えている。かかりつけ医に連絡、相談し助言、指導をいただいている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	長期入院しその後他の施設に移転した方がいるが、ご本人はホームに戻ると確信していたため、ご家族と相談し黙秘していたことがあった。住み替えではないが夫婦で入居していて夫が急死した。妻は葬儀に参加したにもかかわらず死が認識出来ず、夕方になると夫を探し回り不眠状態が続いている。本人の気持ちを紛らわせるため寄り添いながら会話したり、やれることをお手伝いしてもらっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	便、尿失禁した場合等はみんなの居る所では着替えを行わず言葉にも注意している。引継ぎのとき丁度ご本人がそばにいる場合は、「Aさん」など個人名は出さずに呼ぶようにしている。記録は入居者の目に付かないよう保管に注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉以外にも顔色や態度からも感じ取る努力をしている。にこやかに身振り手振りも交えてわかってもらうよう日ごろから入居者と接している。「○○さん、何食べたい?」、「こっちの服とこっちの服、どっちがいい？」など出来るだけフレンドリーに接している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の一応のスケジュールは決まってきるが、決して急かすことの無いようにしている。集団生活の中でも遅れにはこだわらず、状況が許せば皆でまつようにしている。（食事、散歩、外出、行事等）飲酒を希望される方は決まった場所で定量を飲んでいただいている。喫煙される方はいつも決まった場所で喫煙していただいている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	清潔を保つ以外には出来る限り本人の希望通りにしている。マニキュア、化粧などその都度希望があれば手伝うようにしている。ホーム内の職員が散発しているため本人の希望を聞きながらヘアースタイルを決めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「何食べたい？」「何が好き？」等問いかけその方の好みがメニューに入れられるようにしている。食材も季節のもの、ホームの畑で採れた物を利用し話題にしながら調理を行っている。　また、片付けはその方が出来る範囲で全員でおこなっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今までの生活の中で飲酒されていた方はこちらの管理のもと定量でのんでいただいている。（その日の体調を考慮の上）　喫煙される方は所定の場所にその都度来て貰い吸って頂いている。おやつ等はその方の病気を考慮しながら召し上がって貰っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者1人1人の排泄パターンを読み取って適宜訪誘導するようにしている。尿意、便意のない方が2人おり、紙パンツを使用しているが頃合をみてトイレへ誘導している。汚れた下着を部屋中に隠す方がいるが本人のいないとき見つけて洗濯している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日、時間などは決めておらず、入りたい希望があればその方の都合にあわせて入浴していただける（毎日入浴する方、1日おきの方、寝る前にご入浴の方等）入浴前にバイタルチェックを行っているのでその日に高熱だったり高血圧だったりすれば本人納得の上中止させる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心身に無理がない範囲で昼夜逆転にならないよう昼間は外食、食事作り、ゲーム等に参加していただき寝ないように工夫している。夜間の巡回は物音で起こしてしまわぬよう注意している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の好きな人、野菜作りの上手な人、花作りに興味のある人等その方が張り合いが持てる役割をやっていただいている。　また、カラオケの好きな人にはいつも歌えるよう準備している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その能力のある方には、なるべく最少額で所持していただくようにしている。1人で買い物に行かれる方には職員が距離を置きついていく。自分で自由に選べる楽しさ、支払う事の自信を大切にしたい。後にお店の方に金額、品物の確認をする。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム隣接の公園を日常的に活用している。その他にも、ホーム近くに遊歩道がありしかも、適度な間隔でベンチが設置されているので毎日のように散歩で利用している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの行事を企画実行している。温泉、お花見、旅行（1泊）にはご家族も一緒に参加され楽しまれている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたいという希望があれば電話を職員がつないであげている。今のところあまり希望が無く年に数回。1人の入居者のところに娘からよ手紙が来るが、本人から返事を書くことは無い。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、お立ち寄りいただけるようお願いしており、行事などにはご家族の参加を依頼している。部屋が広いためご家族が宿泊していくこともある。また、居室に台所が設置してあるので簡単な調理をして入居者と団欒しながら召し上がっている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切しないということは、日常的に職員に伝えている。他の施設の身体拘束の例を挙げ非人間的行為を話し合っている。徘徊の場合でも、ただ連れ戻すのではなく、暫く共に行動しその原因や欲求希望を根気よく聞きだし、納得して落ち着いていただく。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に生活時間体内でも施錠は一切行っていないため、入居者が外へ出かけるには自由に出来る。中には1人で買い物、花の水遣り、ゴミ拾いなどしているが、いつも職員の目の届くようにしている。買い物は少し離れてついていく（危険が伴うため）		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に誰か1人は入居者たちと共に行動している。個室で休まれている方に対しても様子を見ながら声かけしている。夜間帯は2時間毎の巡回、体調の悪い入居者には随時巡回し安全確保を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為（防虫剤、中性洗剤、化粧品、生花等）のある方は順時見えない箇所に移動、保管している。ご家族が冬物に防虫剤を入れてしまっていたが、すぐ入居者が口に入れられていたので撤去し、その旨をご家族に電話連絡しご了承いただいた。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関しての勉強会、研修会は内外共年に数回行っている。また、マニュアルも1人ずつ職員に渡し、すぐ対応できるようにしている。事故と身体拘束の因果関係は難しいので、ご家族に説明し理解していただいている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故に対して勉強会を行っている。また、マニュアルも作成し職員に渡している。緊急通報時のマニュアルも作成しており、いつでも見れるよう電話機のそばに貼ってある。職員の看護師に勉強会を開いて貰い、学習している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を行っている。上階に住んでいらっしゃる方にも声をかけ、2,3名の参加をおねがいしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時、契約時にリスクについて十分説明し、納得していただいている。防止できることは最小限になるよう、ご家族より支援していただいている。あまりにリスクを重視しすぎると、身体拘束に発展するため、そのことはご家族に理解していただいている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを1日2回（朝食後、入浴前）行い、記録はしっかり残しており、申し送り等にも徹底している。話をしながら顔色、声の状態、手などにふれて異常を早期発見できるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬台帳に薬の効用、副作用、注意点を薬のサンプルと共に記入してある。薬をいただいた時は必ず看護師による投薬チェックをしている。また、薬が変更になった場合は、台帳、サンプルも差し替えている。薬の袋に入れる紙も、朝、昼、夕、寝る前の色を別にし、誤薬防止に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄記録を残しており、職員全員がチェックできる体制にある。船室の食品は意識して取り入れており、天気のいい日には散歩、室内では機能訓練、レクリエーション等を取り入れている。水分が不足がちの人に対しては、さりげなく補水を心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨き、うがいを励行している共に、折を見て口腔内を見せて貰い、気がかりな点があった場合や本人からの訴えがあった場合には、協力医院に受診している。食後、義歯洗浄を職員と共に行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限の必要な人には盛り付け、食材を工夫して他の人とあまり差がないように心掛けている。糖尿病の方は、そのときの血糖値を考慮し、量の加減をしている。慢性腎不全の人は塩分、蛋白質、水分、カリウムを含む食品を制限し、野菜などは湯こぼしなどをして調理方法を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症予防の勉強会、研修会に参加して、より知識を深めている。また、それぞれの感染症のマニュアルを作成し1人1人に配布している。インフルエンザは全員接種している。もし職員が感染病になった場合は暫く休んでもらい、入居者に感染しないように努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の購入時、賞味期限などをよく見て新鮮なものを買ってくるようにしている。ホーム内では食品、食材をよく洗い、布巾、まな板は漂白、滅菌している。残り物は早めに処分している。冷蔵庫内の在庫の食品も賞味期限などを常にチェックしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般賃貸マンションと共用のエントランスのため、他のグループホームと異なった構造になっている。玄関前には緑地帯があり、プランターなど設置されている。夜間は水銀灯、通路灯が常時点灯され、入り口付近は分かりやすくなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	RC構造なので遮音性に優れ、窓を閉めると外部にはほとんど聞こえない。全室南向きであり、隣地との間隔も十分取ってあり、風通し、日差しも問題なく、よりよい環境を作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花に興味のある方は外に出てプランターの花を眺めたり、前の公園に行きブランコに乗ったり近所の方々と思い思いに話をされたりしている。施設通路にはソファー、ベンチを用意してあるので入居者同士がくつろげるようにしている。通路には手すりも設置してあり、歩行訓練をされる人もいる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリー対応型の一般賃貸マンションと同一の部屋のため、各戸に玄関、廊下、居間、台所、浴室、トイレ、ベランダが設置してあり、1人1人に適した家具調度品を用意している。今まで使用していたタンスや三面鏡などを持ってきて居心地よく過ごされている。中には仏壇を持ってきた方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各室換気設備が整っているが、天気のいい日には入居者の了解の下で窓を開けている。温度調節に関しては、昼夜を通して職員がこまめに調節している。窓を閉めると外部のにおいなどは遮断されている。常に不快にならないよう注意している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に建物全体が高齢者住宅規格になっており、手摺は勿論老化巾確保、車椅子対応の洗面台、流し台、さらには照明、緊急呼び出しボタンも完備している。特に居室玄関の台（イス）、手摺が大変喜ばれている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の認知が不可能な人には、それぞれ特徴のある表示を設置し表示の高さも見やすい位置に工夫している。談話室（食堂）が分からない人には、常に職員が目配り、気配りをして混乱のないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	隣地が公園でもあり、自然環境には恵まれている。それぞれの季節を肌、耳、目、鼻で感じ取ることが出来る。ベランダでは自由に鉢を並べ、花、家庭菜園を楽しんでいる人もいる。また、自分の洗濯物を干し、日常の日課としている人もいる。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

静岡県　グループホーム旬彩

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

私たちのグループホームは賃貸マンションの1階部分というほかの施設と違った構造になっています。
上階の住民と触れ合う機会も多く、行事の声かけにも応じ、いつも数人が参加してくれ、入居者も刺激になりお互いの相乗効果になっています。
高齢世帯には食事の提供、時にはボランティアで介護をさせていただいたり、昼間グループホームの入居者と数時間お過ごしになられる方もいます。
ドアを開け、1歩通路に出れば、その季節（寒い時はヒヤッと、夏は蝉の声、秋は木の葉が舞い散り、春は芽吹きの若草色）を五感で感じることが出来ます。
1ユニット9人と少人数であったが昨年から小規模多機能型居宅介護を開始したことにより、デイサービス、ショートステイ利用者とふれあう機会が多くなり活気が出てきたように感じます。